

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成14年
8月号

毎月23日発行
通巻384号

(題字 矢追日聖)

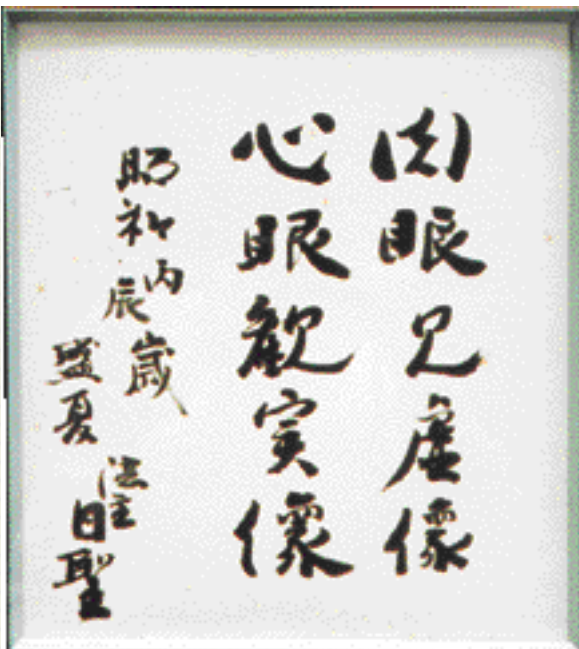
★発行日 平成14年8月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



肉眼見虚像
心眼観実像

昭和丙辰歳盛夏

法主日聖



法主様の色紙 (徳島市・近藤充智さん提供)

人の親は子故の間に迷う
家内和睦は福神の御祭
日月は人を待たず
人の事は目に見ゆる
我身の事は人に問へ

昭和五十一年盛夏
法主日聖

大倭病院職員座談会

肉体のない心の世界 (上) ——法主様に聞く

平成2年11月 大倭会館にて

霊界は必ずある

杉本志津女(司会) 今日の仕事を離れて、総長さん(大倭病院での法主様の職名)から、人の話を聞く時の心の持ち方とか、ものの見方・とらえ方をお聞きしようということ、こういう機会をつくりました。

それともう一つは、坂口先生からの要望で、昨年、病院の常務理事だった柴地則之さんが四十八歳で急死されているんですが、現在、霊界で生活なさっているとしたら、どういうご様子かとか、まあ人の死んだ後の心の世界の話是非お聞きしたいということです。

その後は、個人的なことでもかまいませんので、どんどん聞いて下さい。

かあさん(矢追鈴月) 坂口先生、霊界のことなんか、ちよつとぐらい考えるところか、興味あるんですか?

坂口嘉一医師 興味って言うか……。親が天理教です。

かあさん 死んだら、死んだらべえとは思ってはらへんわけ?

坂口医師 そうですね。霊界があるとか確信はない。はっきりしないんですけど。

かあさん それは、行って帰ってきたわけじゃない(笑)。

法主 仕事終わってから、こんな時間に皆来てくれるのたいへんやったやう。何か有効な話せんといかんなあ。

この頃、テレビでも霊界とか靈魂とか、そんな番組ようあるわな。本もずいぶん

出てるような、私は読んだことないけど。

霊界の説明は難しいわ。これが霊界や言うて、ここで見せるわけにいかんしね。私自身も分からん世界や。けれども私で分かっている範囲があるんやな。今日はこうして集まってもろたんやから、ちよっとお話しはするけども、こんなん信じてもええし、疑うてもええんやで。

けれどもね、霊界というのは、死んだら必ずあねん。これはもう決定的。

あんた達みんな、心の働きと肉体の働きとあるでしょ。その心の働きの部分を、霊界と考えたらいいんやわな。例えば、東京へ行きたいと思うとして、心は行くことができるけど、肉体はここにある。霊界というのは、肉体がなくなった心の世界やねんな。

心は霊魂と言うてもええし、生命体やねん。そこから霊波というのが放射している。電気みたいなものと考えたら分かりやすい。霊界は、物体が無いところや。霊波しかない。つかみどころがないんやけれどもその波長の中に、その人の心とか姿とか全てのものが入っていて、それを個人として見た場合なら私には分かるんやね。しかし霊界全部のことはね、まあ絶対説明できへんわ。こんな複雑怪奇なこと、整然と本にでも書いてる人、えらいと思うわ。自分の見た範囲の部分的なことしか書けないはずやねんけどな。

霊界の定義を言うとしたら、「肉体のない心の世界」やわね。

心の働きにも二つある。一つは生まれてから後の現在意識、もう一つは受胎する以前の潜在意識という、そんなもんがあねん。例えば財布を拾ったとして、現在意識では自分の物にしたいという欲望がある。片一方で、警察に届けなあかんと言ってくるような理性がある。一人の人間の中で、

そんな二つの心の働きがある。こんなんが現界と霊界の働きと言うたらええんかな。

それによつて霊界でも楽しんで生活してる人もあれば、苦しんで暮らしてる人もあるわけや。

霊界にも生活があるんやね。けども、肉体を持つてない、物体とちがう世界や。肉体を持つていない時には、お互いにこうして話もできるけれども、肉体がなくなる、ということは死んだらということやね、死んだ人同士が交流するということとは、なかなかできへん。ところが生きている、肉体を持つてている人間となら交流できるとかね、実に複雑やねん。

柴地さんは、どないしてはんのやろという話になるんやけどね、物体とちがう世界というのは、訳が分からんところがあつてね。

仏教の方では、十界（※地獄界・餓鬼界・畜生界・修羅界・人間界・天界・声聞界・縁覚界・菩薩界・仏界）と言うて十の世界に分けて説明してます。死んだら三途の川を渡つて、山を登つて、そういう世界に行く言うてね。生きている時に、悪い事してたら地獄へ行つて、鬼が出てきて鉄棒でどつかれたり炎に焼かれたりするとか、そういう説明してるわ。

私の見ている霊界はそんなとちがうねん。

けれどもね、もし仏教を絶対的に信仰しておつたら人が死んだ場合には、死後の世界にそれが出てくるんやね。自分の生きていた時の認識が、死後の世界に出てくる。例えば阿弥陀様、観音様を一生懸命、信仰しておつたら、死んでからも出てくる。

生きている時の想念、例えば私がこの場所に高い塔を建てると、自分の心に描くとするんやな。それが現実には建つてないとしても、後の時代に霊界を見る人が来たたら、「ここに昔、塔がありま

したよ」と言うよ。

目の三つあるような不動さん、手が海老みたいたくさんある千手観音さん、化け物みたいやけど、まあ一つの理を表して誰かがあんな形のものをごしらえたんやね。すると霊の世界で、あんな姿で出てくるし、もの言うしね。あんた達でも、三途の川渡つて、山登つて、鬼が出てくるなんて思つてたら、死んだらほんまに出てくるよ(笑)。

だからそんな余計なこと考えるな、ということをご般若心経で説いてんねん。般若心経は、みんなよう唱えてるやろ。この世の形や現象を「色」、心の世界を「空」と言うてんのやな。「色即是空、空即是色」ということは、色も空もどつちも、そんなことは全部忘れて、心の中は空っぽになれと言つてるわけや。結局、自分でつくつたものが出てくるんやから、つくらなかつたら出てこない。そういう悟りを説いているのが般若心経やねん。口で百万たら唱えるだけでは何にもならへんよ。お経は、薬の効能書みたいなものや。

生きている時が大事

生きている時が、一番大事や。生まれてから死ぬまでに自分のしたことが、死んだ時に霊の世界で一瞬にして出てくるねん。私が見ておつたら、鬼が出てきてどうこうするとか、そんなんあらへん。けれども自分の心で自分を裁くんやな。だから悪いことをしていたら、自分で苦しまんならん。生きている間に肉体を通してやってきた行為と心の状態とのバランス、その功罪をコンピュータのようにさーっと瞬間に、自分自身で清算するんやね。それで人の喜ぶ仕事をして功德を積む方が多かつたら、自分の霊の世界での生活が楽になるねん。けれども餓鬼道に落ちてる人もある

わ。肉体を持っていれば腹減るし、飯食うやろ。霊界に行ったかて腹減るんやで。精神的に物食いたいという気持なんやわなあ。その時に食べよう思ったかて食べられへんのや。『餓鬼草紙』という絵巻物には、もう骨に皮を被つてただけ、腹だけパンパンに張つてるような人が描いてあつて、食べようとすると下からバーツと燃えてきて食べられへんとか、そんな表現をしてるわ。霊界には、そんな心の状態の人が、うじゃうじゃ居るねんで。その親とか兄弟、先祖さんが死んでいたとしても、誰一人、話はできへんのや。一人一人の霊の波長が違うから。電気やつたら、周波数が違うのや。NHKと朝日放送とでは別になるやろ。それと一緒に、霊波長がみんな違うから交流できへん。

ところが、さつきも言つたとおり肉体を持つている人間とはいつても交流ができる。霊界の中間士ではあかんのや。それで昔から、先祖供養ということができるんやね。

それで、柴地さんなんかはね、見ておつたら、良いところに行つてるのや。あの人やつたら、霊界同士でも話してできるし、痩せてもおらんし、ちよつとも苦にならんわ。非常に安定してます。だからもう別に心配もいらんけどね。

私のそばにでも、しよつちゆう来てるよ。肉体のない念の世界やからね。一つのエネルギーがあつて、私なんかしよつちゆう感じてますわ。

あんな風に急に心筋梗塞とかでお医者さんがやることをやつてもあかんかったというのの、もう、そこまでの寿命、天の定めということやわなあ。人間の力でどれだけ合理的に手当てしたかて、そんな定まりごとがあれば、あかん場合がある。それは、その人の持つて生まれた宿命や。

だから私なんかでも用事がまだあるから生きさ

せてもろてんのやろ。用事がなくなつたら、すぐにあつちへ行きますよ。脳内出血か、ガンか、肉体を持つている限りはどないなるか分からへん。あつちへ行くのは肉体が減びる時やもんね。自分では自分の父親のように頭やつたら結構やなど思てんねん。父親が死ぬまでに三回か四回、えらい痙攣を起こして倒れたんやけど、直つた時に聞いたら、痛いことも痒いこともあらへんと言つてましたからね、同じ死ぬんやつたらそんながええなあ思てますねん。まあガンの末期症状で苦しんで死ぬ場合があつたかて仕方ないわ。何でも自分に起こつてくることは、その原因を自分がつくつてるんやもんね。昔から善因善果とか悪因悪果と言つてるわな。

だから良いことをしていたら、良うなつていくというのが一つの結論やけども、寿命の長い短いにはまたね、生を替える(※六道のいずれかにいたものが他の道に生まれ変わる)こと。六道とは十界の内、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の六つの迷界。広辞苑より)ということもあるのやで。前の世で何か罪をつくつていた人が、一度肉体を持つた人間に生まれると、それが消えていくというようなことがあるんやな。赤ん坊が生まれてすぐ死ぬ時には、そういう場合もあるんやからね。

死ぬことにも深い意味がある

人間が死ぬということは、その人それぞれに何かの深い意味あるんや。簡単に、偶然に死んだとか、そんなものどちがうよ。けど天寿というのは自分では分からへんのや。私が見ておつても分からへん。誰でも自分の寿命が分かつてるとはいややで。神さんは塩梅よう分からんようにしてくれてはるわ。とにかく自分の受け持つてきた寿命だ

けは生きていくねん。

私個人の場合だと、明治四十四年の生まれですわ。その時、神さんが母親に、この子は普通の健康状態で生まれさしたら戦争で死んでしまう、と言つたらしい。医者が診ると、必ず心臓が悪いように言う。それで兵役も免除になってますねん。大学では剣道もやりましたし全然支障はなかつてんけどね。それにしても不思議やな、私が生まれた時にもう、戦争戦争という時代がくるのが、神さんには分かつてたんかなと思ふんですよ。

私だけではないに、あんだ達でもみんながね、何かの宿命というか役目というのがあらんやな。

私の家は、お祖母さん、母親が神がかりでね。私で三代目ですねん、こんな気違いみたいな。母親なんか、死んだ人のことでも、それは鮮明に見る人やつたわ。

そんな家やからね、もう毎日毎日、神さん神さんで生活してんねん。例えば、井戸の水を一日に何杯使うか、決められてる。お祖母さんは、それをやつてましたわ。それに柴は、山で冬に作つて一年間ツシ(※屋根裏の物置場)に上げて乾かして使わんなん。地面の杭を抜いたかて畑の大根抜いたかて、その跡の穴は手でパツパツとならしておくんやな。守らなければ必ず罰が当たるんやね。死ぬことかてある。

井戸の神さんこわい、火の神さんこわい、土の神さんこわい、一から十までそんなんで、私は大きいなつてますねん。だからもう私は神さんはいやになつてね、かなり抵抗してましてん。目に見えんものを相手に、こんなうるさいのかなわんと思つてました。そら竹の子が床の下から突き上げて屋根の裏を破つたかて切られへん。年に一回だけしか庭の掃除したらあかんのや。もうお化け屋敷みたいなそんな所で、子供の時から何をしたか

てすぐに罰当たると言われたら、もう神さんなんか大嫌いになるよ。

ところが十七、八歳になると、私自身が気違いになってきた。いろんなことが聞こえてくるんやがな。そして「お前は宗教で行け」と言われる。一番嫌いなことですがな。ところが今、こうしてやってんねん。

みんな宿命がある

自分の宿命となつたらね、どれだけ現在意識では抵抗したかて、やらんなんよになつていくねんな。これは人間みんな、そうやと思う。だからあんた達でも、大倭病院に出てくるということは何かの縁があつて来ていると思つてね。職員さんに対してでも、自分の身内みたいな気でおるんや。縁のない人は、めつたに来いへんのやから。ところがまた縁には、深い縁と浅い縁とがあるんねん。来てすぐ辞める人もあるし、ズーツとおる人もあるやろし、どんな人もあるわけや。

それで私が三十四歳の時、昭和二十年の終戦を迎えたんやね。もう戦争に負けて仕方ないから、神さんを拝みに行ったら、「お前の仕事はこれからや」と言われた。それまではとにかく、やることなすこと何をしているんか、よう分からへん。これから何の仕事をするかも分からないんやけど、「街頭に立ってしゃべってこい」と言われた。言われるといつても、心の中、頭の中で聞こえてくるんやけどね。

一番最初は大阪梅田の国鉄の駅前に立って、戦後の日本人がどんな気持でやっていたら良いかとか、そんな結局、社会福祉の話をしました。話の中で、神さんつて口にする、野戦から毛布でも背たろうて戻ってきた人に、「戦争に負けて何

が神さんや」言うて罵倒されたこともあるし、いろんなことがあつたわ。けど神さんのやれと言われることをやらなかったら、私の命はないかもわからんし、殴られて死んだつていいやと思つてました。戦争に行つてれば死んで普通なもの。千日前の雑踏の中でしゃべつた時は、椅子持つてくる人あつて、そこへ上がつて話せ言われたりな。喫茶店のレコードも止めてくれるんや。そんなこともあつたしな。

今のこの場所は、うちの所有地やつたから戦争前から畑作り、田作りに來てました。終戦になつてからここへ仕事に來た時に、光明皇后さんが出てきたんです、初めて。それまでは、全然出てこなかつたんやけどね。やつぱり時機というものがあるんかしてね。

明るい昼間やつたけど、霊界の姿というのはね、さつき言うたとおり波長やねん。波長の中に、その姿があつて、私の心に写るわけや。光明皇后と名乗るから、ああ、この人が光明皇后かと思つたんですよ。向こうは私を、法主と言うんやね。

そしてまず、法主は、これから地下水のような仕事をすると言われた。次に紫陽花の花を出されてね、紫陽花の花の如くに、形をつくれと言われたの。「地下水の如く清く流れ、紫陽花の如く美しく咲け」というように聞こえてくるんやな。それで、ああ、地下水のようなきれいな心で仕事をせんといかんと、まあ理屈では分かるわな。紫陽花の花は、一つの軸にたくさん花びらみたいのが集まって丸くなつてるでしょ。結局、それが財布一つ釜一つの生活共同体のようなものを指してたわけやねん。

それから今度は「来る者は拒まず、去る者は追わず」と言われたんやね。街頭で立って話していると、大陸からの引き上げ者とかもいるし、天王

寺辺りにはもうルンペンみたいな人多いし、孤児みたいな子供も地下にいるしね、「助けてくれ」と来る人があるねん。自分らからキユウキユウとしているところへ、また人が増えたらわがの喉しめや。瞬間にその煩惱が出てくるわ。私も商売してたことあるしね。けどバツと「連れて帰れ」と言われるんやもの。命令や、もう。

それで、この山の中で生活してたんやな。食い逃げみたいななんもおつたけど、別に追いかけるわけやしね。時によつたら十八、九歳の不良のグループがおつたわ。男も女もや。

まあ、そのお陰で私も質屋の味を覚えたり、いろんなことを経験させてもろたわ。

今、大倭病院になつてるけど、あそこに池があつてん。池の下の方に便所がこしらえてあつてんな。四斗樽に板を二枚渡しただけ、もう天井もない、雨が降つたら傘さしてん。大便してると、もう決まつて池の堤防を誰か歩きよんねん。そして「おはよう」言うてね(笑)。恥も何もあらへんの。

そんな生活を二、三年過ごしたらね、また切り替わつてきたわ。栄養失調で死にもせんかった。

霊界人が言うから仕方なくやつてんけど、言うとおりにしとつたら、やつぱりいけるもんやねん。百姓かてしたしね、経験ないのに。年のいった牛やけど不思議に私の言うことを聞いてくれるんや。田で犁かろきを使う時なんか、牛がちゃんとやり方を知つてる。ずっと田の端まで行つたら勝手に回つてな、私に教えてくれるねん。ところが他の者に使わしたら、角を向けたり、すーっと横へ草食に行つてしまふ、いたずらするんや(笑)。妙なもんやな、牛でも、人間と心の交流できるんかなあと思つたわ。

(続く)

こもれる魂魄の地をたずねて(十) 後鳥羽上皇と承久の乱

今回は、好むと好まざるとにかかわらず後鳥羽上皇から離れる事の出来なかつた人々の「戦後の承久の乱」を御紹介したいと思います。

1221年、公家政権に君臨する後鳥羽上皇は、源実朝暗殺による鎌倉幕府内部の混乱を好機として、武家政権打倒に起ち上がりました。いわゆる承久の乱です。結果は、尼將軍北條政子の名演説もあり上皇方の大敗北で終わります。三院二宮(後鳥羽上皇・土御門院・順徳院・雅成親王・頼仁親王)は配流、関係者はことごとく処断されるという苛酷な運命が待ち受けていました。

後鳥羽上皇は隠岐に配流されます。岡山県井原市西方町金剛福寺に途中立寄られたと言う伝承があり、寺より1000米程離れた田園の中に「上皇と従者一同の供養塔」があります(写真①)。寺の方によれば、お盆には上皇の霊を慰める為に『鳥羽踊り』と言うものがあるとのことでした。ちなみに『隠岐の闘牛』も、上皇を慰める為に始められた行事であったそうです。上皇は19年に及ぶ配所生活のすえ崩御され、遺骨は順徳院と同じ京都大原勝林院町に納められ、「大原御陵」として今に残っています。

また二人の宮、頼仁親王は倉敷市木見にて(写真②)、雅成親王は豊岡市高屋にて(写真③)生涯を終えており、それぞれ「御廟」が存在します。ともに幕府の次期將軍として請われていた皇子たち



①

でした。そのことを思うと我が身の不遇を嘆かれるお二方の心の内はいかばかりだったでしょうか。

順徳院も22年もの間を佐渡にておくられ(写真④)真野宮)、「真野御陵」があります。他に子供達である「第一皇女慶子女王(写真⑤)」「第二皇女



⑤



④



②



⑥



③

忠子女王(写真⑥)、「第三皇子千歳宮(写真⑦)」も真野の地に今も眠っています。

ところで、私は10年程前に職場の先輩であり悪友でもある守下氏(元長曾根寮職員)と佐渡



⑨



⑧



⑪



⑦



⑫



⑩

に行く機会があり、大倭にも縁の深い、佐渡在住の平田一家と大滝さんにひとかたならぬお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。今思ふと「よくあんな厚かましい旅が出来たものや。あんなええ旅二度とでけへんな」と、守下氏と会うと話になり懐かしくもあります。

さらに浜松市にも「皇子寒巖法皇御廟」があります(写真⑧)。また京都嵐山には「曾孫志玄王墓」があり(写真⑨)、このように順徳院関係の史跡は多く存在し現在に至ります。

土御門院は討幕計画に消極的で参加していなかったのですが、自らの意志で土佐に、後に阿波国・徳島県鳴門市に移り崩御されています。「御陵」がこの鳴門市と長岡京市金ヶ原(写真⑩)にあります。

続いて、乱の首謀者として処罰された殉難五卿について少しふれたいと思います。まず藤原光親ですが、乱後、鎌倉に護送される途中に斬られ、富士浅間神社から籠坂峠に向かって約3キロの静岡県小山町の山の中腹に「按察使権中納言藤原光親卿塚」があります(写真⑪)。私は3月の初旬、小雪の散る中を雪を踏み締め白い吐息をはきながら訪れた当時を思い出します。

藤原範茂も神奈川県南足柄市怒田にて、斬首よりも入水をお願い、あわれにも近くの清川で命を絶っています。今は範茂史跡公園として整備され、「左近衛中将藤原範茂卿墓」があります(写真⑫)。「藤原宗行供養塔」は御殿場の藍沢神社内に、「一条信能終焉跡」が恵那郡岩村町若宮の岩村神社内にあります。源有雅も山梨県にて同じ定めをたどっています。

いつの世にも、戦いは幾多の犠牲があります。その犠牲の上に現世が成り立っている事を忘れてはならないでしょう。

人も惜し 人も恨めし あぢきなく
世を思うゆゑに もの思ふ身は 後鳥羽院
もしきや 古き軒端の しのぶにも
なほあまりある 昔なりけり 順徳院
※以上二首は小倉百人一首から (兼田 隆)

くだまことだま クローン人間誕生の危険

奈良市藤ノ木台 清川 雅蔵

生物は、約九億年前から卵子が精子を受精して子供をつくるという営みが始まり、父親と母親の遺伝情報が受け継がれるため、目覚ましい進化を遂げるようになった。環境の変化に耐え、多種多様な生物や人間が地球上に生まれ今日に至っている。母親の胎内では、その九億年の生命のドラマが再現されてベビーが誕生する。

クローン人間の場合は、受精の営みを経ずに、体細胞と卵子を使う。体細胞は男女どちらでも可能で、女性だけで子供をつくることもできる。卵子から遺伝子を含む核を取り除き、そこに体細胞の核を移植する。この卵子を女性の子宮に入れて出産すると、体細胞の持ち主と同じ遺伝情報を持つクローン人間が誕生することになる。

世界初のクローン羊、ドリーが誕生して以来、この技術を使った家畜が誕生しているが、その出産成功率は、5%以下である。成長に異常がある？寿命が短い？などの実験結果もあり、科学的にも多くのナゾが残され、この技術はまだ確立されたわけではない。日本は、二〇〇一年六月、クローン人間づくりを禁止するクローン規制法を施行し、他の多くの先進国も禁止している。国連でも二〇〇二年二月からクローン人間禁止条約を作成するための議論が始まっている。

しかし、二〇〇二年四月、イタリヤ人医師が「クローン技術による妊娠に成功。年内にも誕生する可能性」と発表したというニュースが世界中を駆け巡った。詳細は不明であるが、そうした希望者の中に日本人のカップルもいることが明らかにされている。

おそらくは不妊に悩むカップルが、自分達と遺伝的につながった子供を持ちたい場合であろうかと思う。しかし遺伝的に父あるいは母のコピーとして誕生するということは、どういうことであろうか。人間は単に遺伝子によってのみつくられるものではなく、育てられる環境、教育、努力などによって変化するから、やはり別人格の人間になるのだろうか。何か予想外の心身の欠陥をもって生まれてくる可能性もある。社会的に全く未知の問題も生じるであろう。周囲の好奇心にもさらされることであろう。生まれてきた子供が、自分自身をどう考えるであろうか。幸せになれるのだろうか。疑問、懸念だらけである。

「生命」は、宇宙、地球、サムシング・グレイト(＝偉大なる何者か)が膨大な時間を尽くしてできた最高の傑作である。大自然の不思議な営みとしか言いようのないものが、一分一秒の休みもなく正確に働いているのである。この神秘的なプログラムは、人間の知恵や工夫だけでつくられたものでないことを忘れてはいけない。細胞一個でも生きている基本的な仕組みについて肝心なところが分かっているのだから。子供をつくるというが、両親だけではつけれない。両親はそのきっかけをつくり栄養を与えるくらいのものである。この真実を、私共は再認識する必要があるのではないか。クローン技術を使ってまで、自分の遺伝子のコピーを残したいというのは、人間の「おごり」ではないだろうか。

平成13年11月11日 大倭会文化講演会 於：大倭大本宮拝殿

アニミズムの世界 — 沖繩・龍神・・・ (5)

— 故山尾三省さんを偲びつつ —

講師 野本三吉氏

伊良部島

宮古島の隣に伊良部島がありまして、そこに行つた時のことです。浜川さんという女性が島の中を案内してくれたのですけれど、浜川さんのお連れ合いが、足をひきずるようにして歩いておられました。その方を真ん中において比嘉ハツさんや村の人みんなが集まっています。

そうしたら、龍神の神様になる巫女さんが、もう七転八倒して苦しがるんです。ハツさんは、「この水はどうなっていますか」と聞いた。

ぼくは、龍神というのは、水の神様と考えている。龍というのはつまり辰。これはまた蛇ともつながってくるのですが、水があるというところは、人間が生きていくうえで一番大事なことで、農業をやるにしても漁業をやるにしてもすべてのもともになります。すべてのもとは水と土。水信仰と重なっている。

「水の源はどこにあるのか」と、ハツさんはものすごい声で聞く。

どこどこに水が湧き出している所があるというところで、そこに行かなければならないと、翌朝早く皆で行くんです。浜川さんも足をひきずりながら一緒に行きまして、水の湧き出ている場所には、いろんなものが捨ててあって、まあすさまじい状況だった。

「大事な龍神のもとにこんなことして何だ。あなたはそのことを知らされているのだ。足が痛いと言ったが、本当はどこが痛いのだ。本当のことを言いなさい」とハツさんが言うんです。本当は性器が痛くて歩けないのだが、恥ずかしくて言えなかったのです。「人間にとって一番大事なところを、地球にとって一番大事なところをこんなこととして。あなたは、この島を立てる中心になる人です。だからあなたに教えている。そのことを分らずして何しているか。あなたはこの町の議員にならなさい。そして、この町を本当にきれいにしなさい。汚れているところをなくしなさい」

そして、その浜川さんは議員になり、最終的には議長になりました。この島は見事な島になりました。ハツさんが言われた清めの仕事をずっとなさっていました。——今度行つた時に、後継者の方が「浜川さんは亡くなつたんですよ、三吉さん。でも浜川さんの後を私がやっています。町は発展してすばらしい町になつていまして、でも皆そのことに気がついていない」とおっしゃっていました。

伊良部島のど真ん中に大きな池が二つあります。これは「透り湖」といって、上から見ますと龍の目玉に見えます。したがって島の人たちは龍眼と言います。これはもう広くて、ものすごく深いんです。真青というか真黒です。どんなふうになつていのか分からない。そこにハツさんが飛び込んだことがある。もう助かりようがない。皆が紐をつないで一生懸命やつても届かない。

ハツさんはその中で悠々と泳ぐわけです。三十分、四十分と経って、もうこれ以上やつたら力尽きちゃうんじゃないかと思つたら、水面が隆起してきた。紐のところまでグーツと上がつてきて、ハツさんは紐につかまって上がつてくるんです。その時、手に持っていたのは、大きな宝貝なんです。

す。これは今も比嘉さんの家に飾つてあります。ハツさんは、「龍眼の、世界を見通す力を、私ここで頂いた」というふうに言うんです。

そしてハツさんが祝詞を上げていられる時、祝詞を聞きながら手を合わせる時、ぼくは、急に睡魔に襲われた。どうしても目を開いていることができない。まぶたが重くてかなわない。目を閉じるとスーツと地の底に吸い込まれるようにいい気持ちになる。スーツと落ちていく。透り湖の中にもものすごい勢いで引つ張られて、でも、どこまで行っても水のところに行かないんです。下に見えるんだけれど、どんどんどん体が前に倒れていくのが分かる。体がぴしゃつと膝のところできつてしまふ。ずい分長いことやつていました。ハツさんが、「ハイッ」と、祓つてくれたんですね。目の前で、バリバリバリと音がするような感じだったんです。

「何していた」とハツさんが聞くんです。「いや、ぼくは落つちていたような気がするんですけど」と言いましたら、「はいはい、龍眼をあげよう。ハイッ」と、くれるんです。

そんな、ちよつと笑い話みたいなこともあって、沖繩ではいろんなことがありました。(続く)

こぼれみ

七月三十一日、藤本敏夫君(歌手の加藤登紀子さんの夫)が帰幽した。彼が大学一年の夏、大阪生野区の第五初級学校という朝鮮学校で運動場整備のワークキャンプをFIWCが行つた時、共に参加した。その時、早大に留学していたアメリカ青年、ジョール・カツツ君から「ウイ・シャル・オーパーカム」を、朝鮮学校の先生方からは朝鮮語の「イムジン河」の歌を覚えてもらった。そんな楽しかった思い出がある。(杉本順一)

あじつ日記

7月13日 夜、大倭会館で東大祭と弥栄おどりを前に邑人の準備会が開かれました。

福井市の齋藤正宏さん来邑、15日まで滞在。少しずつ法主様のテープの保存の作業を進めてくれています。

7月14日 祝会。梅原猛さんが仏教について京都の中学生に話された、NHKの番組のビデオを見て、色々話し合いました。7月14日・28日、8月10日 吉野地方の職人さん達にお願ひして邑内の枯れ松の伐採作業をしました。お陰様で事故も無く一段落しましたが、長年、邑と共にあった多くの松が姿を消すことは寂しい限りです。

7月20日 子供達の長い夏休みが始まりました。さぞ大倭の中も賑やかになるであろうと想像していたのですが、宿題をしているのか、暑いから家の中で遊んでいるのか、案外、子供の顔が見えません。昼間に騒がしいのは、早ちゃんや蟬の鳴き声ですかね。

交流の家では、夜、FIWCの定例委員会があり、出発間近の韓国キャンプ、愛生園や光明園での夏祭り、次の中国キャンプへの準備等、この夏の活動に向けて話し合いました。翌日はキャンパー2組の結婚披露の集いもありました。

7月23日 大倭大本宮月次祭。その後、大倭会館で大倭会幹事会で8月の行事予定等が話し合われました。

8月1日 大倭印刷(株)では

大倭会第272回文化行事 秋の一泊旅行ご案内 富士山麓に日蓮を訪ねる

日時 10月27日(日)～28日(月)
行き先 身延山
ルート
(1日目) 奈良・下部温泉郷
下部ホテル泊 TEL0556-36-0311
(2日目) ホテル・身延山久遠寺・

近辺観光…奈良
※遠隔地であり、関東方面の方もあるので
A. 住復奈良から全行程バスで参加
B. 宿泊ホテルに直接集合して2日目は団体行動
の2コースで参加募集します。

費用 お一人3万5千円(コースAの場合)
申込み 10月5日までに世話人まで
皆さん、お誘い合せの上、ご参加下さい。
10月13日(日)の祝会で勉強会を行います。

問合せ 世話人 湯浅芳郎
TEL0742-48-3389

2月に千葉智之さん、5月に上田和美さんが一身上の都合で退職されたため、蔵田喜美代さんが新採用されました。

8月4日 若いプロ棋士の中野泰宏君、孫英世君が来邑。
また李章根さんの紹介で、東京外国語大学教授(比較宗教学)の町田宗鳳さんが来邑、一泊されました。李君も東京からきて、双葉館のお世話で大倭会館で邑人等数人が夕食を共にして歓談しました。桜井市に帰っているという李さんの仲間の島田雅美さんや、前記の二人のプロ棋士もちようど参加しました。

8月6日 広島に原爆が投下された午前8時15分に合わせ、慰霊と平和祈念のため奈良市内の社寺、教会では一斉に鐘等を鳴らします。大倭でも拝殿の大太鼓を、反保隆臣さんが打ち鳴らしました。

8月1日で大倭病院は開院15周年を迎えました。この日、定例の朝礼で、松本真副院長を含む4人が、10年勤続で表彰されました。

午後、大倭神宮月次祭。熊本県水俣市の高倉敦子さんが来邑されました。

8月9日 長崎の原爆記念日、午前11時2分に大太鼓が打ち鳴らされました。

8月10日 喫茶倶楽部「和み」が夏休みに入りました。25日まで。

大倭安宿苑では
7月16日 夜間、菅原園で出火の想定で、合同防災訓練が行われました。

7月27日 恒例の夏祭り。住苑者の皆さんにはかき氷やたこ焼き等の屋台が第一の楽しみです。暗くなると職員が苦心した花火の打ち上げに歓声が上がりました。

7月30日・8月7日 来年度新規採用者見学会を実施しました。(菅原園)

7月17日 今年度4回目の遠足行事。今年は天候によって行き先を変えていて、この日は雨天のため、木津町の「きつづ光科学館」へ住苑者3名が、家族・職員と共に行きました。(須加宮寮)

7月14日 調理クラブ、スタート！初回はゼリーとプリンにホイップクリームや果物でトッピングして、喫茶で頂きました。(長曾根寮)

7月15日 各フロアで誕生会。2階では3名の方のお祝いを家族と共にしました。

7月27日 夏祭りのカラオケで、2名の代表が歌いました。(八重垣園)

7月17日 11名が参加された7月の俳句の会。「さくらんぼ少女集いてよく笑う」「白壁に映える色あり今年竹」「雲の峰松の木枯れし合間より」「木下關役の行者の禰立つ」

あんない

*月次祭(大倭神宮)
9月6日(金) 大倭神宮にて午後2時より。

*大倭会主催第四〇六回祝会
9月8日(日) 大倭大本宮拝殿にて午後2時より。

*月次祭(大倭神宮)
9月15日(日) 大倭神宮にて午後2時より。

*月次祭(大倭大本宮)
9月23日(祝) 大倭大本宮拝殿にて午後2時より。

こだまこだま
東京都渋谷区 山崎 寿々
拝復、日元様、御心こもるお手紙を頂きましてどのように嬉しく思いましたか。……
思えば有難い御縁にあずかりまして私は大倭に導かれ……日本の礎はここに在りと知らせて頂きました。私は「道会」を魂の故郷といたして居ります。人は皆各々故郷をもって居りますのは当然でございます。
そして帰るところは霊界でございますが、そちらも人各々、場がございます。それまで日元様の仰せられます通りお互いに精進してまいりたく折り合いたく存じます。(7月17日)

【お詫び】先月号「表紙写真について」の文中、7月25日は菅原道真公の生まれた日でした。亡くなったのは2月25日です。